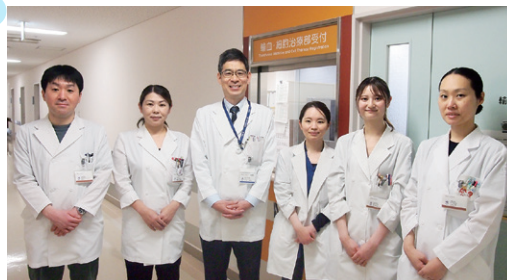


CLOSE UP!



輸血・細胞治療部について

輸血・細胞治療部では、血液製剤の一元管理、輸血前検査、移植関連検査、細胞管理を行っています。今回は、輸血・細胞治療部に輸血療法における安全管理の取り組みについてお話を伺いました。



輸血療法とは

輸血療法は、失血や貧血、手術などにより不足した血液成分を補うことで、患者さんの症状を改善する治療法です。輸血は重要な医療行為ですが、感染症のリスクや副反応が生じる可能性もあるため、正確な検査と厳重な管理のもとで行う必要があります。



全自動輸血検査機器

■説明は

徳島大学病院 輸血・細胞治療部

部長 **三木 浩和** (みき ひろかず) (左から3番目)

主任臨床検査技師 **瀧本 朋美** (たきもと ともみ) (左から2番目)

患者さんへひとこと

患者さん一人ひとりに安全かつ適正な輸血療法を提供できるよう、スタッフ一同、日々細心の注意を払いながら業務にあたっています。今後も引き続き、安全管理体制の充実に努めてまいります。

安全への取り組み

輸血・細胞治療部では、厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」に基づき、患者さんに安全かつ適正な輸血療法を提供するために、24時間体制で血液製剤の一元管理や輸血前検査などを行っています。

輸血前検査として、血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験を実施しており、患者さんの血液と適合する血液製剤かどうかを専門の臨床検査技師が厳重に調べています。

血液製剤は、製剤の種類によって保存温度や有効期間が異なるため、専用保冷库および温度監視システムを用いて24時間体制で厳重な温度管理を行っています。また、血液製剤のラベルは血液型ごとに色分けされており、輸血に関する伝票もそれに準じて同一色で

発行することで、血液型を色覚的に認識可能とし、輸血の取り違えを未然に防いでいます。

すべての血液製剤や検体にはバーコードが付けられ、システムで一元的に管理されています。さらに、人的チェック体制も厳重に行っており、血液製剤の受け渡し時やナースステーションでの準備時におけるダブルチェックに加え、輸血直前には患者さんのリストバンドのIDと血液製剤のバーコードを照合するなど、複数の確認工程を設けることで、輸血過誤防止を徹底しています。このように、輸血療法ではすべての工程において細やかな確認と厳格な管理が行われており、患者さんが安心して治療を受けられる体制を整えています。



血液製剤の血液型別色分け



血液バッグと同色の伝票